

2017年4月3日掲載

歯肉の色が黒ずんでいる  
色素沈着自体は正常

歯肉の色の黒ずみは、単なる色素沈着と思われるため通常は心配ありません。色素沈着自体は正常であり、歯周疾患に関係して起こる病変ではないからです。

上皮内に存在する細胞のひとつにメラニン細胞があります。このメラニン細胞がメラニン顆粒（かりゅう）を作り、その顆粒が上皮最深層に移り色素沈着を起こします。メラニン細胞は、全ての人にほぼ同数存在し細胞の活性の違いにより、色素沈着を起こすか起こさないかが決まるといわれています。歯肉の色素沈着は、黒人・東洋人・インディアン・地中海地方に祖先をもつ白人によく見られます。

沈着部位は前歯部に多いのですが、全体的または局所的に、さらに規則的または不規則的に、種々様々な形で存在します。

メラニン細胞の沈着を起こす全身疾患として、アジソン病・アルブライト症候群・フォンレックリングハンセン症候群・黒色表皮腫などありますが、このような疾患はほかにも重篤な症状があります。黒ずみではない歯肉の色の変化がある場合は、全身症状を伴ったり、伴わなくとも局所的に他の変化があるなどの自覚症状があることが多いです。

余談ですが、たくさんの児童の口腔内を学校健診等で見ることがありますが、児童の歯肉にメラニン色素の沈着がある場合、その子の父兄のほとんどは喫煙者であることが分かっており気になるところです。